Veritas In Silico

2026 年 11 月 11 日

各　位

会 社 名　株式会社 Veritas In Silico
代表者名　代表取締役社長　中村　慎吾
（コード番号：130A　東証グロース市場）
問合せ先　執行役員 経営企画部長
郷田　恒雄
Email: ir@veritasinsilico.com

2026 年 12 月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2026 年２月 12 日付でお知らせした 2026 年 12 月期通期の業績予想を下記の通り修正いたしますので、お知らせします。

記

１．2026 年 12 月期 通期業績予想数値の修正　（2026 年１月１日～2026 年 12 月 31 日）

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
当初予想 (A)	113	△ 569	△ 564	△ 567	△ 87.44
今回修正予想 (B)	70	△ 515	△ 509	△ 700	△ 107.95
増減額 (B－A)	△ 43	53	54	△ 133	―
増減率 (%)	△ 38.6	―	―	―	―
(ご参考) 前期実績 2025 年 12 月期	91	△ 396	△ 390	△ 425	△ 65.62

２．修正の理由

2026 年２月 12 日付決算短信にてお知らせした業績予想（以下「当初の業績予想」と表記）においては、現在パートナー企業と実施している共同創薬研究にて 2026 年 12 月期中にマイルストーン収入の発生を予想し織り込んでおりました。しかしながら、その共同創薬研究においてパートナー企業側の事情による研究計画の変更があり、それに伴い、当初想定していたマイルストーンの発生が見込めなくなりました。

当社では、新規契約締結による収益挽回を図ることを意図して、CDA（契約交渉を進めるための機密保持契約）を既に締結している相手先（2026 年 10 月末時点で８件）との交渉を

鋭意進めておりますが、契約締結は早くとも来年度（2027 年 12 月期）以降となる見通しであることから、2026 年 12 月期業績予想の修正に至りました。

■ 事業収益の見込

今年度（2026 年 12 月期）の事業収益は、計画変更のあった共同創薬研究で当初見込んでいたマイルストーン収益（収益見込額約 40 百万円）が発生しなくなること等により、当初予想より約 43 百万円減少し、70 百万円（当初予想 113 百万円）となる見込みです。

■ 損益の見込（営業利益・当期純利益）

営業利益は、当該案件で見込んでいた事業収益の減少（約 43 百万円の減益要因）、事業費用の発生が当初予想より少額に収まる見通しとなったこと（約 95 百万円の増益要因）により、これらを合わせて当初予想より約 53 百万円増加し、△５億 15 百万円の赤字（当初予想△５億 69 百万円の赤字）となる見込みです。

事業費用の内訳のうち研究開発費は、研究開発活動の優先順位見直し等により、発生する費用は当初予想より約１億 22 百万円減少する見込です。研究開発費以外の販売費および一般管理費は、支払手数料、広告宣伝費等の一部費目にて当初予想より支出が増加する見通しとなり、発生する費用は約 26 百万円の増加を見込んでおります。

また 2026 年度に使用開始した建物附属設備や工具器具備品にかかる減損処理による特別損失１億 87 百万円が発生することにより、当期純利益は当初の業績予想より１億 33 百万円減少し、△７億円の赤字となる見通しです。

３．現状認識と中長期的な株式価値向上に向けた具体的な取組方針

■ 現状認識

当社が営む事業の状況を概括すると、プラットフォーム型ビジネスにおいては、国内製薬会社３社と現在進めている共同創薬研究においてはマイルストーン達成や化合物探索などの創薬研究において一定の成果を挙げております。

また、上場後に注力しているパイプライン型ビジネスにおいては、自社独自の創薬研究とあわせて、三菱ガス化学株式会社との共同探索研究、さらに東京慈恵会医科大学との共同研究を通じて獲得された医薬品候補物資が各々特許申請に至り、今後将来時点で国内外の製薬会社へ導出（ライセンス・アウト）することを目的に実施する、医薬品候補物質の効果や安全性を検証するための「動物試験」、さらに医薬品候補物質やドラッグデリバリーシステム Perfusio®を実際に人体に対して使用してみて、その効果や安全性を評価する「医師主導臨床試験」を実施するための開発段階に入ります。

プラットフォーム型ビジネス、パイプライン型ビジネスともに、2026 年２月 12 日付『事業計画及び成長可能性に関する説明資料』でお示しした成長戦略に沿って、概ね計画通り進捗しているものの、プラットフォーム型ビジネスを取り巻く事業環境においては、国内の大手製薬会社を中心に、自社での創薬研究を手控え、社外からの導入により医薬品候補物資を確保するように研究開発手法が急速に変化しつつあり、契約約一時金の発生を伴う新規契約の締結が、これまでと較べて困難となる状況が認められます。

■ 中長期的な株式価値向上に向けた具体的な取組方針

当社は中長期的な目標として、2030 年を目途に『mRNA 関連の創薬を主軸とし、研究開発・販売機能等を備えた「スペシャリティファーマ」としての地歩を確立すること』を引き続き目指します。

スペシャリティファーマへの道のりを進むにあたり、何よりもまず、安定的な収益を確保できる状況を取り戻すことが急務と認識したうえで、プラットフォーム型ビジネスでは海外の製薬会社や農薬分野を対象として新たな契約締結に向けたアプローチを継続し、共同創薬研究契約から得られる事業収益の積み上げにより収益拡大を図る方針です。

自社パイプラインの研究開発においては、これまでの研究を通じて創出した複数の医薬品候補物資を、2028 年から 2030 年にかけてのできるだけ早い時期に順次、国内外の製薬会社等への導出（ライセンスアウト）により収益化できるよう、開発研究を着実に進めます。

さらにドラッグデリバリーシステム“Perfusio®”については、2027 年度内を目途とする製造販売許可の取得に向け、パートナー企業の選定と申請準備を進めます。

これらの取り組みを着実に実行・実現することにより、事業収益の安定・拡大とともに、中長期的な株主価値の向上を図っていく方針です。

※ ご参考 ※

当社では 2026 年 12 月中旬を目途に、2027 年度以降の中長期的な事業方針や施策（成長戦略）をとりまとめ、『事業計画及び成長可能性に関する説明資料』としてお知らせするとともに、その内容を投資家の皆さまへご説明する機会として投資家説明会の開催を予定しております。説明会開催要領の詳細は確定次第、追ってご案内いたします。

以 上

※ 業績予想に関するご注意事項

本資料には、現在の予定、推定、見込又は予測に基づく将来に関する記述が含まれております。この将来に関する記述は、発表日現在において利用可能な情報をもとに、当社経営者が判断した内容に基づいております。将来に関する記述には様々なリスクや不確実性があり、諸々の要因の変化等により、この資料に記載の内容又はそこから推測される内容と大きく異なることがありますことをご了承ください。